

令和5年度 病害虫発生予察情報

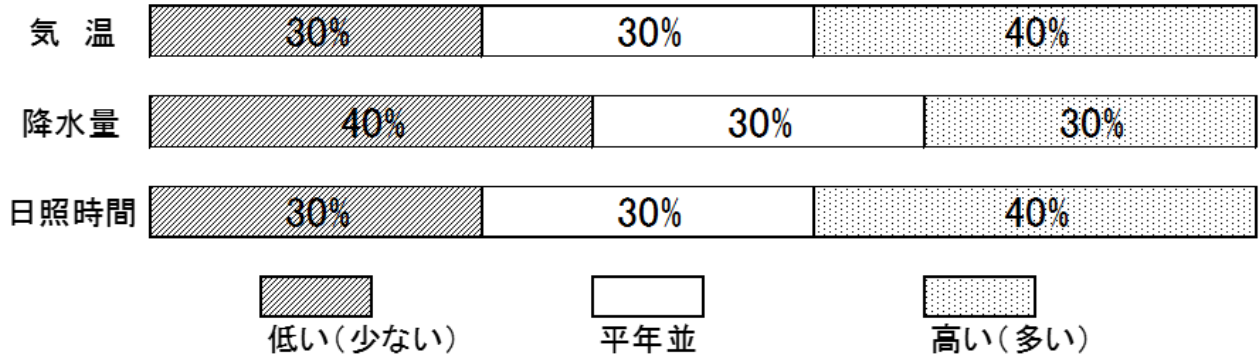
発生予報第3号（6月）

令和5年6月2日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ	少ない
		ニカメイチュウ	やや少ない
		イネミズゾウムシ	平年並
		セジロウンカ	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	やや少ない
		黒星病	平年並
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	やや多い
		ハダニ類	平年並
野菜	カキ	カキタアザミウマ	平年並
	タマネギ	ボトリクス属菌による葉枯れ	やや多い
		べと病 腐敗病・軟腐病	平年並 やや多い

中国地方1か月予報(6月3日～7月2日・広島地方気象台6月1日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第6半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年8.3%）、捕獲数は0頭/50株（平年0.18頭）と発生量は平年に比べて少ない。
- ③ 越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は定点調査では0%（平年1.1%）と低い。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 やや早い
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は4月29日(平成 5月7日)で平成より早く、誘殺数は3頭(平成 12.1頭)で平成よりやや少ない。
- ② フェロモントラップへの飛来は4月21日(平成 4月22日)で平成並み、5月第5半旬までの誘殺数は13頭(平成 72.0頭)とやや少ない。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯では1頭(平成 13.3頭)とやや少なく、フェロモントラップでは33頭(平成 131.5頭)と少なく越冬量は少ないと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 やや早い
発生量 平成並

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は4月29日(平成 5月4日)とやや早い。5月第5半旬までの誘殺数は1頭(平成 23.9頭)と少ない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は21.7%(平成 20.5%)、捕獲数は0.61頭/50株(平成 0.54頭)と発生量は平成並みである。
- ③ 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は169頭(平成 68.6頭)と本年の越冬量は平成に比べて多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
飛来時期 平成並
発生量 平成並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査で、発生は認められていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.4%(平成 1.1%)と、発生量は平成に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平成並

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.1%(平成 0.1%)と、発生量は平成並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は3月31日と平年に比べてやや早い。
- ②フェロモントラップでのナシヒメシンクイの5月第6半旬までの誘殺数は65頭(平年32.9頭)とやや多い。
- ③前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ④向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月6日と平年に比べてやや早い。
- ②フェロモントラップでのハマキムシ類の5月第6半旬までの誘殺数はやや多い
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

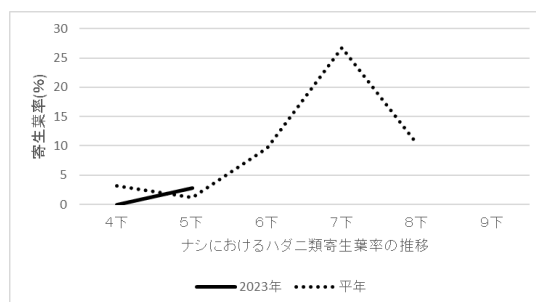
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量は少ない。
- ②5月下旬の巡回調査(安来市)では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は2.8%(平年1.2%)と平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では本種による巻葉被害は認められなかった。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率6.7%(平年15.0%)、発病株率1.7%(平年0.6%)と、発生量は平年に比べてやや多い。
- ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 80.0%（平年 65.1%）、発病株率 26.0%（平年 18.4%）と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

注) 令和5年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号 参照。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 46.7%（平年 40.0%）、発病株率 8.5%（平年 4.4%）と、発生量は平年に比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

注) 令和5年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第2号 参照。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp